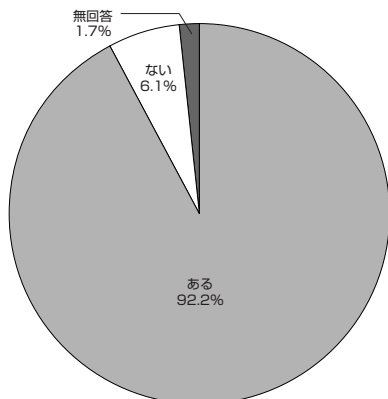


## 第3章 パソコン利用者

### セキュリティ

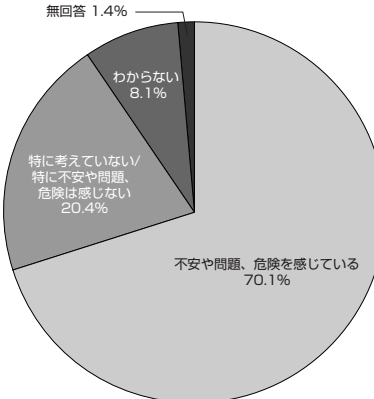
### 不安感を拭えない個人情報の扱い

資料 1-3-52 インターネットを利用した犯罪やセキュリティに関する情報接触有無 N=1,684



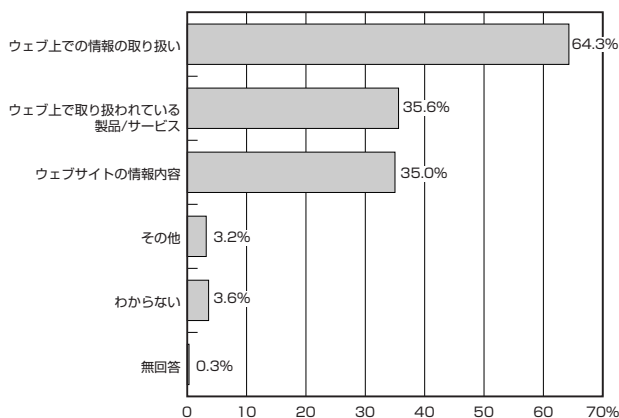
インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-53 インターネット利用の際のセキュリティに対する考え方 N=1,684



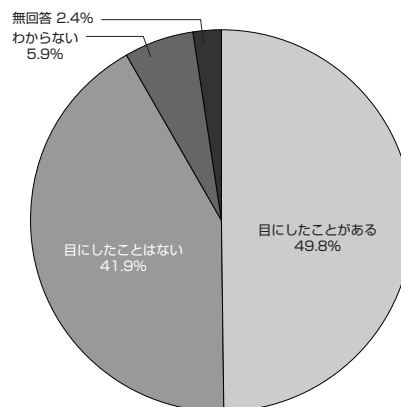
インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-54 不安や危険を感じる分野 N=1,181



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-55 有害情報接触経験 N=1,684



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

## 解説

### ■ セキュリティー

セキュリティ意識に関する設問も今年で3年目になる。例年同様、インターネットを利用した犯罪やセキュリティに関する情報接触経験はインターネット利用者の9割以上を占め、今では避けては通れない話題ともいえる。インターネットの利用で「不安や問題、危険を感じている」率は約7割であった。この不安感は1999年（68.7%）から昨年（75.5%）にかけてはやや増加したが、今年は1999年並みに落ち着いた感がある。しかしながら依然として不安感や危機感は大多数が

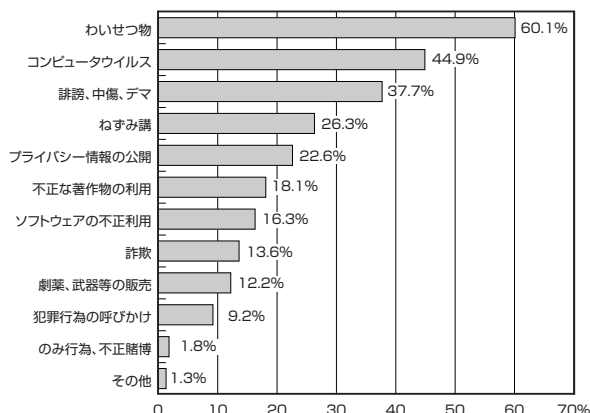
抱えている問題となっている。年代別で見ると、10代では「特に考えていない/特に不安や問題、危険は感じない」率が高く、不安感が薄い。

不安や危険を感じる分野は「ウェブ上での情報の取り扱い」（64.3%）、「ウェブ上で取り扱われている製品/サービス」（35.6%）、「ウェブサイトの情報内容」（35.0%）と、昨年とほぼ同傾向であり、インターネットへの個人情報の流出や濫用を懸念する傾向が最も強いことには変わりはない。また、実際に個人利用者がインターネット上で接触する有害情報につ

いては、利用者の2人に1人が実際に「目にしたことがある」（49.8%）と回答している。昨年（52.8%）、一昨年（67.4%）と比べるとやや減少しているようであるが、昨年から利用歴1年未満のインターネット利用者の比率が増えており、それを考慮すれば楽観的にはなれない。性別年代別で見ると、「目にしたことがない」比率がやや高いのは、60代以上の回答者である。

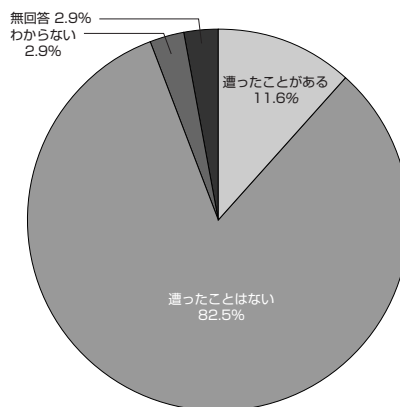
実際に接触した有害情報としては「わいせつ物」（60.1%）、「コンピュータウイルス」（44.9%）、「誹謗、中傷、デマ」（37.7%）、「ねずみ講」（26.3%）、「プラ

資料 1-3-56 有害情報接触状況 N=839



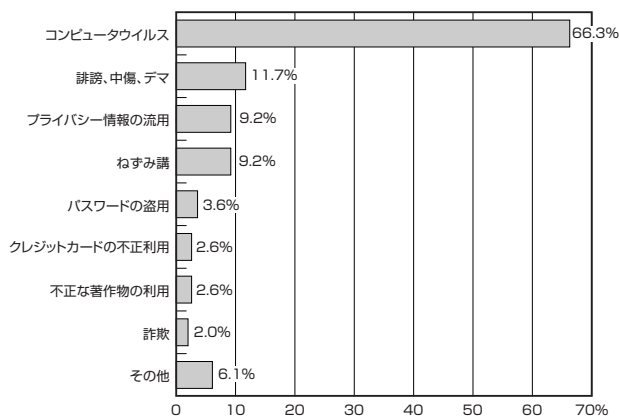
インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-57 迷惑行為接触経験 N=1,684



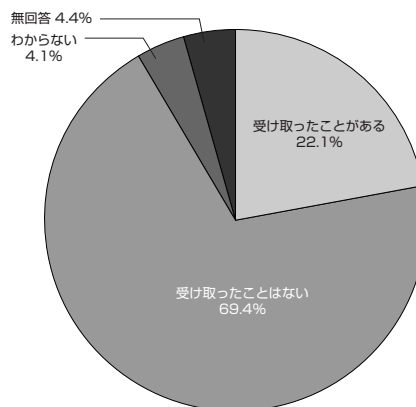
インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-58 迷惑行為接触状況 N=196



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料 1-3-59 迷惑メールの受信有無 N=1,512



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

解説

「プライバシー情報の公開」(22.6%)等が上位を占めており、昨年と同順位である。やや変化がみられたのは「コンピュータウイルス」「プライバシー情報の公開」の増加である。また、実際にインターネット利用者が迷惑行為に遭ったことがあるかどうかを聞いたところ、11.6%の回答者が明確に「遭ったことがある」と答えている。年代別でみると、迷惑行為の接触経験が高いのは30代で、若年層や高齢層では低くなっている。この接触経験については回答者の利用レベルにより、本人の気がつかないうちに被害に遭っている可能性

も多いと考えられるため、実際の発生数はこれを大きく上回ると推測される。

具体的には、インターネット利用者全体の7.7%がすでに「コンピュータウイルス」の被害に遭っており、昨年の6.4%に比べてやや増加している。相変わらず実害として最も多いのは「コンピュータウイルス」である。次いで「誹謗、中傷、デマ」が高い。昨年に引き続きこのメールを受け取る(または開封する)ことによってこうむる迷惑行為は「迷惑メール」の受信経験についても聞いている。ただし、「迷惑メール」の定義は受け取り側の

捉え方によって大きく異なる。たとえば製品やサービスのDMを電子メールで受け取った場合、特典付きで得をしたと感じる人もいれば、どのような経緯で自分にメールが配信されたのか理由がわからず当惑する人もいる。ここでは回答者の主観でその有無を選択してもらった。「迷惑メール」を受け取ったことがあると回答したのはメール利用者の22.1%とほぼ昨年並み(21.7%)となった。年代別では20代が最も多く、60代以上の高齢層では少ない。(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)